

静ト協で特別講演

巻き込み事故対策協議会 県境越えた活動広がる

交差点で発生するトラックの左折巻き込み事故は、物流業界における継続的な課題とされている。これに対し、徳島県北島町に拠点を置く「巻き込み事故対策協議会」(植田俊介会長)は、AIを活用した防止装置の普及や啓発活動を通じて事故削減に取り組んでいる。



警報カメ
ランス
ム「A
CAM」
への関
心も高
く、「巻
き込
み事故
の対策
がで
きる可
能性を感じた」「経験の浅い

(四国化工機)と、小堀雄樹氏(東海ク
ラリオン)。講演で
は、交通事故に関
する法的・社会的責任
や使用者責任について
解説が行われた。

講演後、参加者からは「法的責任の観点からもドライバーを守る立場であるところを再認識した」といった声が寄せられた。また、巻き込み

AI-CAMを取り扱う東海クラリオンでは、「こうした運送事業者が抱える課題に対し、具体的な解決手段を提供できる存在でありたい。

今後安全意識の啓発と、日常に潜むリスクをどう予防して

講師は同協議会事務局長の飛田浩亨氏

巻き込み事故対策協議会

いくつかを提唱し、事故のない安全な社会が実現できるように取り組んでいく」としている。

左折巻き込み事故は運転経験にかかわらず発生する可能性があるとしており、法令順守やドライバー教育に加え、機器を活用した多角的な安全対策が求められている。同協議会の活動は、徳島

から静岡へと広がり越えて情報共有と対策の推進を行っている。(富田 香)